

## 平成27年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

### 1. 研究の概要

プロジェクト名	中国清代から近代に至る「読書」と「歴史」の関係の研究		
プロジェクト期間	平成27年度		
申請代表者 (所属講座等)	竹元 規人 (国際共生教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	なし
取組方法・取組実績の概要	<p>本研究は、中国の清代から近代に至る、史学を中心とした学術展開過程を、「読書」と「歴史」をキーワードとして、再考しようとするものである。清朝考証学においては、儒教の経書を「読む」ことを通じて、古聖人の示した「道」を明らかにすることが目的とされたが、近代においては「道」の追求ではなく、文献から重要な歴史的事実を抽出することが目指された。この転換は、一般には「経学から史学へ」というテーゼで語られるが、それは単純な転換ではなく、その内実をより詳細に研究する必要がある。</p> <p>申請者はこれまで、20世紀中国の代表的な歴史家の一人である顧頡剛(1893-1980)を研究対象としてきたが、その研究の過程で本研究の着想を得、本研究においても、顧の『尚書』研究を清代以来の学術史の流れに位置づけることを主な内容とした。他方、清代の側から近代への展開を見通すものとして、章学誠『文史通義』を取り上げ、その検討を通じて、清代から近代に至る、文献に対する認識の変化を考察した。</p> <p>資料収集と共に文献読解によって上記研究を進め、『文史通義』「詩教下」篇の訳注を作成し、日本中国学会第67回全国大会において研究発表を行った。</p>		
研究成果の概要	<p>平成27年9月15日、申請者が共同研究員として参画している京都大学人文科学研究所の『文史通義』研究班において、同書「詩教下」篇の訳注を報告した。同篇において章学誠は、古の「詩」の在り方に立ち返って、『文選』など後世のジャンル分けが文の形式にとられたものであることを批判している。章は、累加し現存する膨大な文献の性質を根源的に再考し、整序し直そうとしたのであり、こうした姿勢が近代史学に重要な啓発を与えたと考えられる。</p> <p>続いて平成27年10月11日、日本中国学会第67回全国大会(於國學院大學)において、「「読書」と「歴史」——顧頡剛の中国学術史上における位置について」と題して研究発表を行った。顧が1960年代に取り組んだ「尚書大詁訳証」(『顧頡剛古史論文集』巻10)は、前編が「尚書本子総録」(版本研究)、本編上が「語言和文字的整理」(校勘と解釈)であり、ここまでの「読書」、本編下が「歴史之部——周公東征史事考証」であり「歴史」に相当する。このことから、顧は清朝学術で追求された「読書」と、近代学術において主要な課題となった「歴史」の探究とを、接続・統合しようとしていたのではないかと指摘した。</p> <p>その後、報告内容を論文としてまとめるために研究を継続したが、その過程で、顧が『尚書』注釈に際し、『尚書』のテキストの文法的特質に着目していることを重視すべきと考えるに至った。この観点から、改めて清代以降の言語学・文法学の展開について調査を進めた。上記学会報告においては、顧が清代からの学術的展開の主流とすべき路線を歩んでいた面により着目したが、顧が清代からの学術的方法の継承発展とともに、何を新しい方法として取り入れたについては、より緻密な検討を要する。今後、こうした内容を組み込みながら、学会報告内容を増補改訂して論文とする予定である。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請(予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ( )	研究成果の公表方法(予定)	<input type="checkbox"/> 学会(国内・国外): <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等: <input type="checkbox"/> その他: